



地方の過疎対策は鉄道線路を国道に

過疎の村を何とか興そうとした話題が次々とテレビに出ている。いすみ鉄道は房総半島の中央を走る。そこでは頭に電車のかぶり物を被り駅弁「たこ飯」を売る涙ぐましい努力。

中越地震の被災地、山古志村はインターネット上の仮想空間「メタバース」に村を再現。

地方自治体は過疎化を何とかしようと懸命の努力。都会の過密も問題。高層アパートでは子供達が一人で外に出られず、隣近所の子とも遊べない。

しかし、この問題に取組む国の姿が見えない。

コロナ禍でリモートワークが機能する事が確かめられた。一部の人は地方に移住。自然に恵まれた環境で子育てし、ネットで何でも買うことが出来る。でも、遠方や離島から宅配便を頼むと、余分の費用が必要。鉄道は赤字を理由に次々と廃止。これでは地方に移りにくい。

鉄道線路は国道に

今、地方では一人に一台の車が当たり前。それではエネルギー効率が悪く地球温暖化対策に逆行。

車の通る道は国などが整備している。そこで鉄道線路を国道にして、維持管理は国が面倒を見れば地方の負担は少ない。鉄道が便利になれば、車から鉄道に利用者が移る。離島へのフェリーも国道とすれば、宅急便も手紙と同じに全国一律料金で配送できる。

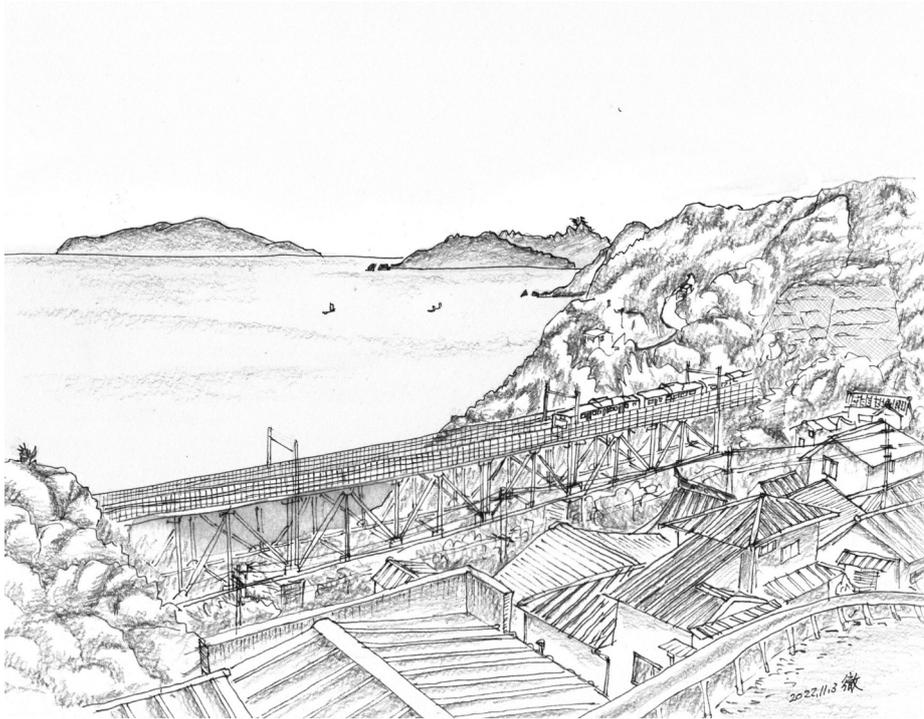
都市の過密、地方の過疎。一挙に解決するのでは？

あなたはどう思われますか？

白系川橋梁

神奈川県小田原市根府川

二〇二二年十一月



根府川駅は小田原が熱海に向かって二つ目の駅。無人駅を降り少し山側の坂を上ると東側に相模湾が開ける。

遠くに伊豆の大島が霞んでいる。この日は噴煙は見られなかった。

両側に険しい崖のある谷に赤い鉄骨を三角に組んだトラスという構造の「白系川橋梁」が見える。

一九二二年に完成したが、その翌年、関東大震災で山が崩壊。土石流で壊滅的な被害。河口付近は入り江になっていたが埋まったと云う。

その後、橋は再建された。鉄骨は赤く塗装されている。

一九九一年にかながわの橋百選に選ばれ、二〇一九年には丹那トンネルと共に「旧熱海線鉄道施設群」として土木学会選奨土木遺産に選ばれている。

今月第三週、第四週は休刊します。

